

関東信越厚生局長 殿

学校法人 東邦大  
開設者名 理事長 炭山 嘉

東邦大学医療センター大森病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 23 年度の業務  
に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	103.84 人
--------	----------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第 13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	262人	176人	420.4人	看護補助者	28人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	3人	4人	6.6人	理学療法士	9人	臨床検査技師	90人
薬 剤 師	52人	3人	55.0人	作業療法士	5人	衛生検査技師	0人
保 健 師	397人	0人	397.0人	視能訓練士	4人	その他	0人
助 産 師	51人	1人	51.3人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	1人
看 護 師	592人	19人	603.8人	臨床工学技士	18人	医療社会事業従事者	4人
准 看 護 師	6人	2人	7.9人	栄 養 士	1人	その他の技術員	33人
歯科衛生士	4人	1人	4.9人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	89人
管理栄養士	16人	1人	17.0人	診療放射線技師	50人	そ の 他 の 職 員	10人

(注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	807.8人	4.5人	812.3人
1日当たり平均外来患者数	2360.9人	45.6人	2,406.5人
1日当たり平均調剤数	入院 1,373.7剤	外来 287.7剤	

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
超音波骨折治療法	0人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	10人
内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	27人
前眼部三次元画像解析	25人
胎児頻脈性不整脈に対する経胎盤的抗不整脈薬投与療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## (様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	Lactulose-水素呼吸試験による小腸通過時間の測定	取扱い患者数	50人
当該医療技術の概要: 小腸で吸収されないラクチュロースが盲腸に達すると、腸内細菌が発酵し、H <sub>2</sub> ガスを発生する。 呼吸中に出現するH <sub>2</sub> ガスの上昇する時間から、小腸通過時間を測定できる。 23年度はIBS症例を中心に行った。			
医療技術名	<sup>13</sup> C-dipeptide呼吸試験による膵外分泌検査	取扱い患者数	5人
当該医療技術の概要: <sup>13</sup> C-dipeptideは膵酵素・carboxypeptidaseによって分解され、呼吸中へ <sup>13</sup> CO <sub>2</sub> として排出される。 膵外分泌不全が行われた症例について行った。			
医療技術名	1- <sup>13</sup> C・2- <sup>13</sup> C・3- <sup>13</sup> C glucose呼吸試験	取扱い患者数	5人
当該医療技術の概要: glucoseを構成する炭素の代謝は各々異なっている。各C原子にラベルして投与し、呼吸中 <sup>13</sup> CO <sub>2</sub> の変化から 糖代謝の評価が可能である。 糖尿病患者に行った。			
医療技術名	クッキーテスト	取扱い患者数	15人
当該医療技術の概要: 食後の糖及び脂質代謝を同時に評価するため、クッキー590kcalを摂取していただき、経時的に血糖・ T-cho・RLP-c・T-G・RLP-I・インスリンを測定した。これを治療効果判定に用いた。			
医療技術名	内視鏡的膵管ステント留置術	取扱い患者数	18人
当該医療技術の概要: 主膵管狭窄を伴う慢性膵炎例			
医療技術名	総胆管大結石例に対するESWL治療	取扱い患者数	4人
当該医療技術の概要: 他の砕石具による破砕が不能な総胆管結石例に対して、ESWL治療を施行している。			
医療技術名	内視鏡的乳頭部腫瘍切除術	取扱い患者数	7人
当該医療技術の概要: 十二指腸主乳頭部腺腫に対して内視鏡的切除を行っている。			
医療技術名	膵石症に対するESWL治療	取扱い患者数	13人
当該医療技術の概要: 主膵管内にある膵石症に対してESWLによる破砕療法を行っている。			
医療技術名	リザーバー肝動注化学療法	取扱い患者数	9人
当該医療技術の概要: 進行肝細胞癌患者に対して、動注ポンプを大腿鼠径部皮下へ埋め込み、固有肝動脈へ開口する様に留置した カテーテルへ接続し、動注ポンプを通して24時間連続的に抗癌剤を注入する。			
当該医療技術の概要:	経頸静脈的バルーン閉塞下逆行性静脈瘤閉塞術	取扱い患者数	4人
胃静脈瘤等を形成する側副血行路を経静脈的に閉塞する。			
当該医療技術の概要:	ソナゾイド造影超音波	取扱い患者数	864人
当該医療技術の概要: 超音波造影剤ソナゾイドを用いた消化器系腫瘍、特に肝細胞癌の質的診断と腫瘍冷療治療効果判定、 びまん性肝疾患(肝炎・肝硬変)の性状診断。			
当該医療技術の概要:	超音波機器を用いてのラジオ波(RFA)での肝腫瘍治療	取扱い患者数	136人
当該医療技術の概要: 超音波機器を用いてのラジオ波(RFA)での経皮的肝腫瘍の治療			
当該医療技術の概要:	腹腔-静脈シャント挿入術	取扱い患者数	2人
当該医療技術の概要: 難治性腹水に対して腹腔-静脈シャントにより腹水のコントロールを行う。			
医療技術名:	CGMを用いた24時間連続血糖判定	取扱い患者数	15人
当該医療技術の概要: 細胞外液のブドウ糖濃度を連続測定することによって、24時間連続に血糖値を推定するシステム。			

医療技術名	ロータブレータ	取扱い患者数	17人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>DCA同様に冠動脈病変を機械的に取り除くアレクトミーに属する治療である。先端にダイヤモンドチップを散りばめたバーの高速回転(毎分15-20万回転)により病変を破砕し末梢に洗い出す。透析患者など高度石灰化病変では本治療方法でのみ治療可能であり、施設基準により本邦においてロータブレータの施行可能な施設は限られている。</p>			
医療技術名	電気生理学的検査	取扱い患者数	15人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>徐脈、上室性頻拍、心室性頻拍等の不整脈患者に対して、不整脈の起源、機序、薬物の有効性を評価する検査あり、不整脈診断と原因不明の失神に対しては、重要な検査である。</p>			
医療技術名	加算的平均心電図	取扱い患者数	141人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>心房、心室の遅延電位を測定し、発作性心房細動、心室頻拍、心室細動などの重症不整脈を生ずる可能性を検出する検査法である。</p>			
医療技術名	不整脈におけるカテーテルアブレーション	取扱い患者数	122人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>経皮的に電極カテーテルを心腔内に挿入し、標的部位に固定して、体表に装着した対極板とのあいだで高周波通電を行い、頻拍の原因となる異常興奮発生部位、異常興奮回路・伝導路を選択的に焼灼し頻拍を根治する治療法である。適応疾患としてはWPW症候群、心房細動、心室頻拍など、ほぼ全ての不整脈である3次元マッピングシステムの併用により開心術後不整脈にも行っている。</p>			
医療技術名	血管内超音波(IVUS)	取扱い患者数	293人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>冠動脈造影では評価し得ない冠動脈の三層構造およびプラークの性状が観察可能である。さらに冠動脈ステント植え込み後の拡張評価において遠隔期再狭窄を軽減する上で重要な所見が得られる。すなわちステントの冠動脈壁への密着、最小血管内腔面積を評価し、エンドポイントを決めることにより当施設における血行再建後の再狭窄率は他施設に比し低率となっている。</p>			
医療技術名	PTCA(POBA)	取扱い患者数	15人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>経皮的冠動脈形成術の基本であり、冠動脈狭窄病変をバルーンにて拡張する方法である。冠動脈ステントの台頭によりPOBA単独で終了する症例は減少しているが、ステント症例の増加に伴いステント再狭窄などでPOBAにて高圧拡張を行う例が増加している。</p>			
医療技術名	冠動脈ステント	取扱い患者数	285人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>現在冠動脈インターベンション(PCI)の中心的治療方法であり当施設においても今年度の92%が本治療を選択されている。冠動脈内に筒状の金属を留置する方法であり数種類のステントが臨床使用されている。</p>			
医療技術名	血栓吸引療法	取扱い患者数	86人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>急性心筋梗塞の血行再建において通常のステント留置では血栓による末梢塞栓がまれでなく、予後不良となる因子のひとつである。血栓吸引療法は閉塞した病変においてその血栓を機械的に吸引し末梢塞栓を防ぐ方法である。単純な吸引カテーテルと末梢に血栓をせき止めるためのバルーンを拡張させその上で吸引するdistal protection deviceに分けられる。後者は末梢塞栓が問題となる変性静脈グラフト病変の待機的治療においても極めて有効であり当施設でも第一選択としている。</p>			
医療技術名	終液ポリグラフィ	取扱い患者数	60人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>慢性心不全患者の30-70%に睡眠時無呼吸症が合併している。終液ポリグラフィによりtypeおよび重症度を判定し、mCPAP、ASL、夜間酸素治療のいずれの治療が有用か判定している。</p>			
医療技術名	ASV Cadaptive servo-ventilator	取扱い患者数	20人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>上記、呼吸補助器具を使用することにより、重症心不全患者の血行動態を改善する事ができる。当院ではASV使用前後に心エコーによるパラメータをチェックし、導入が有効と判定できる患者様に導入治療をしている。</p>			
医療技術名	冠動脈MDCT	取扱い患者数	166人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>胸痛スクリーニング、バイパス術後患者様の冠動脈病変、重症度、術後開存しているか等のスクリーニングを行っている。</p>			

医療技術名	心臓MRI	取扱い患者数	39人
当該医療技術の概要: 造影5-10分後のdelayed enhancement MRI (DEMRI)により心筋壊死範囲と領域を判定し、心臓viabilityを評価している。			
医療技術名	心電図同期心筋血流SPECT	取扱い患者数	404人
当該医療技術の概要: 心臓核医学検査において、心筋血流SPECT検査で心電図同期法を用いることで従来の心筋血流評価に加えて心機能を同時に評価することができ、診断精度が向上する。			
医療技術名	関節リウマチ及び膠原病に対する免疫抑制薬の適正使用	取扱い患者数	500人
当該医療技術の概要: 種々の免疫抑制薬が関節リウマチ及び全身性エリテマトーデスなどの膠原病に対して使用されているが、安全性を十分に考慮した適性使用を行なった。			
医療技術名	関節リウマチ及びベーチェット病に対する生物学的製剤の適正使用	取扱い患者数	200人
当該医療技術の概要: TNF阻害薬などの生物学的製剤が、関節リウマチやベーチェット病に使用されているが、安全性を十分に考慮した適正使用を行った			
医療技術名	三次元合成画像を用いた手術シミュレーション	取扱い患者数	20人
当該医療技術の概要: MRI、CT、SPECT、DSAを組み合わせた三次元合成画像を作成し、骨切除、脳のリトラクトを行い、シミュレーションを行う。			
医療技術名	脳血管内外科手術	取扱い患者数	100人
当該医療技術の概要: 脳動脈瘤、脳動静脈奇形あるいは硬膜動静脈瘻に対して、コイルなどを使用し、血管内閉塞術を行う。			
医療技術名	脳機能モニタリング	取扱い患者数	60人
当該医療技術の概要: 術中に脳の運動機能・言語機能・脳幹機能をモニタリングすることにより、術後の神経欠落症状を軽減させ得る			
医療技術名	未熟児脳室内出血後水頭症に対する待期的外科療法	取扱い患者数	5人
当該医療技術の概要: 未熟児脳室内出血後水頭症に対して、V-Pシャント術までにミニチュアCSFリザーボアを留置し、定期的に髄液排除を行い、児の生長を待って、V-Pシャント術を行う、もしくは、手術の回避を検討し得る。			
医療技術名	脳室内出血に対する神経内視鏡下手術	取扱い患者数	10人
当該医療技術の概要: より低侵襲な手術が可能となり、今後さらに症例増加が考えられている。			
医療技術名	クロイド・肥厚性癍痕に対する治療	取扱い患者数	200人
当該医療技術の概要: クロイド・肥厚性癍痕に対し、部位、性状に応じて、切除手術、トラニラスト内服、トリアムシロン局注などの組み合わせ療法を行い良好な成績を得ている。			
医療技術名	色素性疾患に対する治療	取扱い患者数	200人
当該医療技術の概要: 外傷、熱傷後の色素沈着症、色素脱に対し、レーザー、削皮術、植皮術、軟膏療法等の組み合わせにより良好な治療成果を上げている。			
医療技術名	骨膜弁/HAP複合移植による頭蓋顎顔面の再建	取扱い患者数	3人
当該医療技術の概要: 外傷、悪性腫瘍摘出後の頭蓋顎顔面領域における骨欠損に対し、肋骨骨膜付広背筋弁および他の血管柄付骨膜弁を挙し、人工骨(ハイドロキシアパタイト)を被覆し、骨膜弁・HAP複合体を作成、移植を行い良好な治療成果を上げている。			
医療技術名	実物大臓器立体モデルによる手術計画	取扱い患者数	3人
当該医療技術の概要: 先天性疾患や外傷、悪性腫瘍切除等の手術などによる頭蓋顎顔面領域の骨の変形や、欠損は、多くが複雑な形状を呈している。形状を実物大立体モデル(模型)により手術前に把握し、手術計画をたて、術後の形状をシミュレーションすることにより、よりの確で精度の高い手術が可能となる。			
医療技術名	遊離・有茎動脈皮弁術	取扱い患者数	50人
当該医療技術の概要: 頭蓋顎顔面領域や、躯幹、四肢軟部悪性腫瘍切除後などの広範囲組織欠損に対し、マイクロサージャリーを用い、複合組織皮弁移植による再建を行っている。			

医療技術名	ナビゲーションシステムによる頭蓋顎顔面骨の再建	取扱い患者数	30人
当該医療技術の概要： 先天性疾患や外傷、悪性腫瘍切除等の手術などによる頭蓋顎顔面領域の骨の変形や、欠損は多くが複雑な形状を呈している。術中に再建後の形状をシミュレーションし、整復位置の確認などを行うことにより、より適確で精度の高い手術が可能となる。			
医療技術名	成長ホルモン治療	取扱い患者数	20人
当該医療技術の概要： 成長ホルモン分泌不全性低身長、ターナー症候群、軟骨異栄養症における成長障害に対し、成長ホルモン治療を行っている。			
医療技術名	先天性甲状腺機能低下症の診断と治療	取扱い患者数	30人
当該医療技術の概要： 新生児マス・スクリーニングにて高TSH血症を指摘された新生児において、治療の必要性の有無を検討すると共に、幼児期に休薬後TRH負荷試験および甲状腺シンチグラフィを施行し病型診断を行っている。			
医療技術名	肺高血圧に対するプロスタサイクリン(PGI <sub>2</sub> )（フローラン）持続静脈療法	取扱い患者数	48人
当該医療技術の概要： 原発性および二次性肺高血圧に対するプロスタサイクリン（フローラン）持続静注療法の開始ならびに在宅管理の指導を行い、全国症例の約1/4を観察中であり、良好な成績を得ている。特に若年例・小児例では全国の80%以上の症例を治療している。			
医療技術名	先天性心疾患の胎児心エコー検査	取扱い患者数	50人
当該医療技術の概要： 「先進医療」として指定され当院が国内で2番目に認可された。胎児に心疾患の疑いがある場合、ご家族の希望により心疾患の出生前診断を行いあわせて治療方針や予後の説明までを行なう。			
医療技術名	けいれん性疾患に対する長時間脳波記録、及び解析	取扱い患者数	5人
当該医療技術の概要： けいれん性疾患の発作型や発作頻度の確認のため、または偽けいれんとの鑑別のために、携帯型長時間脳波記録を行い、脳波所見と発作型の分析を行っている。			
医療技術名	小児難治性白血病に対する集学的治療	取扱い患者数	12人
当該医療技術の概要： 難治性白血病に対し、組織形態学的、免疫学的、分子生物学的診断を行い、専門の教育されたスタッフによって、無菌室、無菌ベッド等の施設を用いた診療が可能である。			
医療技術名	小児期心疾患のカテーテル検査術	取扱い患者数	120人
当該医療技術の概要： 先天性心疾患と後天性心疾患（巨大冠動脈瘤を伴う川崎病、原発性肺高血圧など）に対し、心血管造影、選択的冠動脈造影などを行なった。適応と緊急度に応じて夜間や週末などにも対応可能である。			
医療技術名	小児期心疾患のカテーテル治療	取扱い患者数	30人
当該医療技術の概要： 動脈管開存や肺動脈弁狭窄などの先天性心疾患及び術後末梢性肺動脈狭窄などの症例に対してカテーテル治療を行ない手術を回避し得た。			
医療技術名	肺高血圧症等に対するNO吸入療法	取扱い患者数	5人
当該医療技術の概要： 原発性肺高血圧症、Eisenmenger症候群に代表される先天性心疾患に伴う肺高血圧症や重症肺炎に伴うARDS等の患児に対し間欠的ないし持続的にNO（一酸化窒素）を吸入させ、良好な結果を得ている。			
医療技術名	新生児期重症心疾患の内科的管理及び外科的治療	取扱い患者数	50人
当該医療技術の概要： 完全大血管転位、大動脈縮窄など新生児期早期に重症心不全を呈したチアノーゼを呈する症例（先天性心疾患）に対して、抗心不全療法、PGE <sub>2</sub> の授与、人工換気などを施行。診断確定後外科的治療（心内修復術、姑見術）を施行してきた。			
医療技術名	慢性腎不全小児の成長の評価と治療	取扱い患者数	10人
当該医療技術の概要： 著しい、成長・発達障害をきたす小児の慢性腎不全に対し、透析中、腎移植後を含めて評価し、適応例にはホルモン療法を行っている。			
医療技術名	顆粒球減少症に対するG-CSF療法	取扱い患者数	3人
当該医療技術の概要： 顆粒球減少症の児に対し、G-CSFを投与した。			

医療技術名	新生児重症心疾患の内科的管理及び外科的治療	取扱い患者数	15人
当該医療技術の概要: チアノーゼまたは重症心不全を呈する新生児早期の先天性心疾患に対するPGE1製剤などによる内科的治療及び新生児早期の開心術、短絡術を随時施行している。			
医療技術名	新生児持続性肺高血圧症における一酸化窒素吸入療法	取扱い患者数	5人
当該医療技術の概要: 新生児持続性肺高血圧症に対し、微量のNOガスを投与した。			
医療技術名	肺サーファクタント補充療法	取扱い患者数	20人
当該医療技術の概要: 未熟児呼吸窮迫症候群に対し、人工肺サーファクタント補充療法を行った。			
医療技術名	気管支肺異形成症に対する高終末呼吸換気療法	取扱い患者数	6人
当該医療技術の概要: 気管支肺異形成症に対し無気肺を予防しつつ長期に人工換気療法を行った。			
医療技術名	未熟児動脈管開存症に対する薬物的閉鎖療法	取扱い患者数	12人
当該医療技術の概要: 未熟児動脈管開存症に対し、心エコー検査で評価した後、インドメタシン静注療法で閉鎖させた。			
医療技術名	未熟児網膜症に対するレーザーによる光凝固療法	取扱い患者数	4人
当該医療技術の概要: 重症の未熟児網膜症に対し、眼科と協力してレーザーによる光凝固療法を実施して、失明を予防した。			
医療技術名	強膜トンネル付きトラベクトミー	取扱い患者数	30人
当該医療技術の概要: 難治性緑内障に対し、従来のトラベクトミーの短所を改良し、術後流出路の閉塞を起きにくくし、眼圧コントロールに良好な成績を得ている。			
医療技術名	二重強膜弁法トラベクトミー	取扱い患者数	6人
当該医療技術の概要: 従来のトラベクトミーの困難性を二重強膜弁を作成しアプローチすることにより、本法を簡単にし、さらにトラベクトミーへの変換、ジヌトミーの併用、白内障手術との同時手術に有用である。			
医療技術名	スーチャー・カナリゼーション(suture canalization)	取扱い患者数	12人
当該医療技術の概要: 従来のトラベクトミー、トラベクトロミーの術中および術後の合併症をより少なくした方法で、超音波水晶体摘出術、眼内レンズ挿入術との三重手術に応用し良好な成績を得ている。			
医療技術名	黄斑円孔に対する内境界膜剥離除去術	取扱い患者数	19人
当該医療技術の概要: 黄斑円孔に対して硝子体手術のみでなく、内境界膜を剥離除去することにより円孔の閉鎖率の向上を図る。			
医療技術名	光線力学療法	取扱い患者数	3人
当該医療技術の概要: 光感受性物質をあらかじめ血管内に取り込ませ、それに特定して感受性の高い波長の光を照射し、活性化し、組織を阻害し、新生血管を阻害し正常組織に対する障害をおさえる。その結果失明のリスクを減らす。			
医療技術名	極小切開白内障手術	取扱い患者数	15人
当該医療技術の概要: 外科手術は常に切開のダウンサイジング化が目標であると考えた。創に2mm以下の白内障術を目標に現在2.3~2.4mmにて手術を行なっている。			
医療技術名	総合周産期センターにおける早産予防の高度管理	取扱い患者数	306人
当該医療技術の概要: 総合周産期センター、母体胎児集中治療室において、嚴重なモニター管理の下、妊娠継続を計っている。胎児娩出時期を周産期と検討し決定している。			
医療技術名	生殖補助医療における非侵襲的卵巣刺激法	取扱い患者数	580人
当該医療技術の概要: 従来への卵巣刺激方法と比較して、自然周期卵巣低刺激方法を施行することにより、身体的・経済的負担を軽減し、良好胚を獲得することができる。			
医療技術名	多胎妊娠の集学的治療法	取扱い患者数	49人
当該医療技術の概要: 双胎、品胎に対し、総合周産期センターにおいて、嚴重な管理の下、早産、合併症の発症予防に周産期管理を行っている。特に、品胎に対しては、新生児科医、麻酔科医と連携をとり娩出時期を決定している。			



医療技術名 妊娠高血圧症候群妊婦の管理	取扱い患者数 38人
<p>当該医療技術の概要：  食事及び薬物療法により、妊娠高血圧症をコントロールし、母児共に最適な時期での分娩時期を検討している。  また、内科とも連携し、より詳細な母体の全身状態を評価している。</p>	
医療技術名 腹腔鏡下手術	取扱い患者数 374人
<p>当該医療技術の概要：  侵襲の少ない手術として、腹腔鏡下手術が年々増加している。腹腔鏡下に卵巣腫瘍、子宮筋腫核出術、子宮全摘術、子宮外妊娠の手術が施行されており、良好な成績をあげている。</p>	
医療技術名 TESE-ICSI MD-TESE-ICSI	取扱い患者数 119人
<p>当該医療技術の概要：  リプロダクションセンター婦人科部門と泌尿器科部門と協力し、無精子症症例に対して精巣組織より回収した、精巣精子を用いた顕微受精を行い、従来自らの遺伝情報を継承した児を得ることができなかった重症男性不妊症症例でも児を得ることが出来るようになった。</p>	
医療技術名 コルポスコピー検査	取扱い患者数 326人
<p>当該医療技術の概要：  コルポスコピーを用い、子宮頸部異型上皮、子宮頸癌の早期発見・早期治療に有用な検査を行っている。</p>	
医療技術名 婦人科悪性腫瘍手術	取扱い患者数 84人
<p>当該医療技術の概要：  子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、その他の婦人科悪性腫瘍に対して、外科的処置をメインに治療を行っている。</p>	
医療技術名 婦人科悪性腫瘍に対する化学療法	取扱い患者数 92人
<p>当該医療技術の概要：  子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、その他の婦人科悪性腫瘍に対して、各腫瘍・組織型に応じた抗癌剤を用いての化学療法を行い、良好な成績を得ている。</p>	
医療技術名 外来化学治療	取扱い患者数 11人
<p>当該医療技術の概要：  主に卵巣癌術後再発患者さんに対して、QOLを重視し外来での化学療法を行っている。</p>	
医療技術名 遺伝外来における遺伝相談および出生前診断	取扱い患者数 20人
<p>当該医療技術の概要：  遺伝性疾患保因者、家族らの遺伝相談、出生前診断および周産期管理</p>	
医療技術名 卵巣予備能力解析	取扱い患者数 120人
<p>当該医療技術の概要：  従来のFHSやE2による評価に加え、抗ミュラー管ホルモン(AMH)を細くすることにより、加齢に伴い低下する卵巣機能を詳細に評価し、妊孕能評価に応用している。</p>	
医療技術名 卵巣機能低下症例に対する体外受精・顕微授精-胚移植	取扱い患者数 380人
<p>当該医療技術の概要：  社会背景の変化に伴い、高齢化している拳児希望患者(生理的卵巣機能低下症例)の体外受精や顕微授精に際しての採卵において、確実に卵を獲得するための網羅的解析・評価を実施している。</p>	
医療技術名 染色体分析・出生前診断・遺伝相談	取扱い患者数 64人
<p>当該医療技術の概要：  羊水染色体検査を実施し、その結果の評価と説明を行い、さらに希望症例に対して遺伝相談を実施している。</p>	
医療技術名 絨毛染色体分析・遺伝相談	取扱い患者数 10人
<p>当該医療技術の概要：  流産胎児の染色体分析を実施し、流産と染色体異常の因果関係等について解析・評価を行い、流産の原因検索を行っている。</p>	
医療技術名 家庭用品健康被害モニター	取扱い患者数 25人
<p>当該医療技術の概要：  種々の家庭用品による皮膚障害(刺激性、光毒性、アレルギー性、光アレルギー性、接触蕁麻疹等)例を報告するとともに、パッチテスト、光パッチテスト、皮内反応、ブリックテスト等の検査を施行し、原因物質を確定し、再発の防止に役立っている。</p>	
医療技術名 家庭用品臨床検査試験	取扱い患者数 60人
<p>当該医療技術の概要：  家庭用品に用いる化学物質(抗菌剤、防腐剤等)の安全性をパッチテスト、光パッチテストを施行して調べている。</p>	
医療技術名 遺伝性皮膚疾患の遺伝子診断	取扱い患者数 5人
<p>当該医療技術の概要：  先天性表皮水疱症、肥厚性皮膚骨膜炎などの遺伝子診断を含めた集学的な診断を行った。</p>	

医療技術名 重症自己免疫水疱症の集学的治療	取扱い患者数 5人
当該医療技術の概要: 重症天疱瘡、類天疱瘡に対し、ステロイド大量療法が効果不十分である場合に、免疫抑制療法、 血漿交換療法、大量免疫グロブリン静注療法を行い効果をあげている。	
医療技術名 ホルミウムレーザーによる結石破碎治療 TUL・PNL	取扱い患者数 30人
当該医療技術の概要: ホルミウムレーザー発生装置により、結石・尿路狭窄の治療を行っている。	
医療技術名 ホルミウムレーザーによる前立腺肥大症手術 HOLEP	取扱い患者数 20人
当該医療技術の概要: HOLAP、HOLEPによる前立腺肥大症の手術療法を行っている。	
医療技術名 尿失禁に対するTVT手術 TOT	取扱い患者数 19人
当該医療技術の概要: 尿失禁に対して、女性医師による診療・治療、TVT手術を行っている。	
医療技術名 顕微鏡下精巣内精子採取術	取扱い患者数 42人
当該医療技術の概要: 通常の精巣内精子採取術でも精子を採取出来ない無精子症患者に対する最終的手術。	
医療技術名 逆行性射精に対する膀胱内精子回収術	取扱い患者数 6人
当該医療技術の概要: DMや、後腹膜腔手術後の逆行性射精に対し、膀胱内に射精された精子を回収する方法。	
医療技術名 陰茎彎曲症形成手術	取扱い患者数 19人
当該医療技術の概要: 先天性陰茎彎曲症に対するプリケーション法 ペロニー病に対する静脈移植法	
医療技術名 腹腔鏡下前立腺腫瘍(悪性)摘出術	取扱い患者数 36人
当該医療技術の概要: 開放手術でなければ施行が困難とされていた前立腺全摘手術に対して、 都内では7番目の施設認定を受け、より入院期間を短くして施行している。	
医療技術名 内視鏡下鼻内手術	取扱い患者数 60人
当該医療技術の概要: 副鼻腔炎に対し、内視鏡下にて手術を施行する。	
医療技術名 3D-CTによる中耳耳小骨病変の画像診断	取扱い患者数 70人
当該医療技術の概要: 慢性中耳炎の手術前後に3D-CTで、中耳病変の立体的確認を行い手術成績を向上させる。	
医療技術名 耳科手術への硬性内視鏡の導入	取扱い患者数 60人
当該医療技術の概要: 外耳道から内視鏡を挿入して中耳内を詳細に観察して、内耳や顔面神経を損傷することのない 安全な耳科手術をめざす。	
医療技術名 ナビゲーション システムを使用する副鼻腔手術	取扱い患者数 10人
当該医療技術の概要: 解剖学的にアプローチが困難な副鼻腔手術に内視鏡とナビゲーションを併用した安全で確実な手術	
医療技術名 乳幼児の聴覚スクリーニング	取扱い患者数 50人
当該医療技術の概要: 乳幼児の難聴の早期発見と言語指導のためのスクリーニング	
医療技術名 音声改善手術への人工材料の開発	取扱い患者数 5人
当該医療技術の概要: 甲状軟骨形成手術へのチタン材料の導入	
医療技術名 心身症のバイオフィードバック療法	取扱い患者数 30人
当該医療技術の概要: 片頭痛、緊張型頭痛、痙攣性斜頸、書痙等、主として神経筋肉系の心身症で薬物療法では効果が不十分 なケースは、現状では決め手となる治療が少ない。 当院では、これらのケースにバイオフィードバック療法を行い成果をあげている。	
医療技術名 加算的平均心電図(LP)	取扱い患者数 151人
当該医療技術の概要: 心室細動、心室頻拍、発作性心房細動などの重症不整脈が出現する可能性を診断するために、 心房、心室の遅延電位を計測する。	

医療技術名	超音波造影剤(ソナゾイド/レボビスト)を用いた超音波検査	取扱い患者数	896人
当該医療技術の概要: 超音波造影剤(ソナゾイド/レボビスト)を用いた消化器系腫瘍の質的診断と腫瘍凝固療法等の治療後効果判定やびまん性肝疾患(肝炎・肝硬変)の進行度評価法の検討。			
医療技術名	超音波機器を用いてのマイクロ波(PMCT)、ラジオ波(RFA,RITA)での肝腫瘍治療	取扱い患者数	90人
当該医療技術の概要: 超音波機器を用いてのマイクロ波(PMCT)、ラジオ波(RFA,RITA)での経皮的肝腫瘍の治療			
医療技術名	睡眠障害に対する終夜睡眠ポリグラフ検査	取扱い患者数	66人
当該医療技術の概要: 終夜約8時間の脳波を含むポリグラフ記録を行い、不眠、過眠などの睡眠障害および睡眠随伴症の診断を行う。			
医療技術名	術中脳脊髄機能モニタリングとしてABR,SSEP,MEPの誘発電位記録	取扱い患者数	78人
当該医療技術の概要: ABR,SSEP,MEPの誘発電位記録を脳脊髄手術中に行い術後の神経欠落症状の出現を防ぐ。			
医療技術名	経食道心臓超音波検査(テポテ中含む)	取扱い患者数	250人
当該医療技術の概要: 先天性心疾患、弁膜症、人工弁置換術後、左心耳内血栓など通常の経胸壁エコー検査では、詳細な情報が得られない場合、経食道的アプローチは有用となる			
医療技術名	睡眠潜時反復測定法(MSLT)	取扱い患者数	2人
当該医療技術の概要: 客観的な日中の過度の眠気測定、特にナルコレプシーの補助診断のため、脳波記録を2時間ごとに繰り返し行い、眠りにつくまでの時間とそれに伴う臨床症状を記録する。			
医療技術名	Fluorescence in situ hybridization (FISH)法を用いたHuman Epidermal Growth factor Receptor (EGFR)遺伝子増幅の検査	取扱い患者数	25人
当該医療技術の概要: 癌の分子標的治療薬としてEGFRを対象としたそのチロシンキナーゼ活性の阻害剤が開発され臨床応用されている。本検査法はEGFR遺伝子増幅を原因としてその蛋白質が過剰発現しているかを判定し、これらの治療薬の効果予測を目的とする検査法である。			
医療技術名	Fluorescence in situ hybridization (FISH)法を用いた糸状真菌感染の診断	取扱い患者数	60人
当該医療技術の概要: 真菌感染症の診断には培養法による確認が必須であるが、種種の補助診断法に頼らざるを得ない場合も少なくない。本検査法は真菌遺伝子に対する特異的プローブを用いたFISH法により、迅速かつ高い精度で真菌遺伝子の検出を目的とした遺伝子診断法である。			
医療技術名	癌細胞の薬剤感受性に関する遺伝子病理診断	取扱い患者数	320人
当該医療技術の概要: 分子標的薬の普及と保険収載に伴う病理検査室内で行う感受性遺伝子の検索			
医療技術名	N-アセチルシステイン吸入療法	取扱い患者数	30人
当該医療技術の概要: 難治性疾患である、肺線維症の進展防止のため、ムコフィリン吸入を行う療法。			
医療技術名	チューン・ストークス呼吸(CSR)に対するASV療法	取扱い患者数	3人
当該医療技術の概要: CSRに対して、呼吸異常に連動した呼吸補助をすることにより呼吸の安定化を図る方法。			
医療技術名	COPDに対する呼吸リハビリテーション	取扱い患者数	3人
当該医療技術の概要: COPDに対して薬物療法では不十分な症例に対して、呼吸困難改善・QOL向上を目的とした上下肢、呼吸筋力訓練などを総合的に行っていく方法。			
医療技術名	II型呼吸不全患者に対する経皮CO <sub>2</sub> モニターを用いたNPPVタイトレーション	取扱い患者数	1人
当該医療技術の概要: 終夜睡眠ポリグラフ検査時に経皮CO <sub>2</sub> モニター下で睡眠中の低換気に対して、NPPV圧調整をリアルタイムに行う方法。			
医療技術名	副甲状腺内ビタミンD及びエタノール注入療法	取扱い患者数	1人
当該医療技術の概要: 長期透析の合併症のひとつである2次性副甲状腺機能亢進症に対する治療として施行。			
医療技術名	腹膜透析及び腹膜透析・血液透析併用療法	取扱い患者数	47人
当該医療技術の概要: 腹膜透析はQOLの面からHDより優れている。近年、残存腎機能に依存した腹膜透析・血液透析併用療法の有用性が認められ、積極的に施行している。			

医療技術名 小児(特に低体重・低年齢児)に対する腎移植	取扱い患者数 14人
当該医療技術の概要: 体重が10kgに満たない、又は年齢が5歳以下の末期腎不全小児の治療として腎移植を施行。	
医療技術名 ABO式血液型不適合者間腎移植	取扱い患者数 5人
当該医療技術の概要: レシipientの血中抗A抗体、抗B抗体を除去し、抗リンパ球抗体を併用し嚴重な免疫抑制療法を行う事により、従来不可能であった血液型不適合ドナーからの腎移植を施行。	
医療技術名 High-Riskな原疾患を持つ患者への腎移植	取扱い患者数 3人
当該医療技術の概要: 巣状糸球体硬化症は移植腎の原疾患が移植腎への再発が問題である。下部尿路奇形を伴った原疾患とする場合、術前より尿路変更や膀胱拡大術が必要とされ管理は容易ではない。 小児の下大静脈欠損例では移植腎静脈を吻合する静脈に多くの工夫が要求される。 その他、各種原疾患に応じた、高度な腎移植を行っている。	
医療技術名 第2次・第3次腎移植	取扱い患者数 5人
当該医療技術の概要: 何らかの理由で一次移植腎の機能が喪失した患者への2次・3次移植は、抗HLA抗体の形成などにより、免疫学的にリスクが高い上に、長期免疫抑制剤投与のため合併症の発生率も高い。	
医療技術名 内シャントのインターベンション治療	取扱い患者数 268人
当該医療技術の概要: 従来手術でしか再建できなかった血液透析のバスキュラーアクセスを、インターベンション治療を選択することで、内シャント温存できることが多くなる。特に血管に乏しい患者には有用な手技である。	
医療技術名 顎変形症の手術	取扱い患者数 2人
当該医療技術の概要: 顎変形症手術のうち、下顎枝矢状分割法(SSRO)は術前後の顎関節偏位を極力少なくなるのが求められる。 当科で開発した顎関節Repositioning法は、専用の手術器械をSSROと共通化して手術時間の短縮を図るとともに、骨に対する余分な孔開けを廃止、出血量の削減と安全性の向上、かつ正確なRepositioningを実現したもので、従来の術式に比し明らかに良好な結果を得ている。	
医療技術名 出血性素因の口腔施術	取扱い患者数 111人
当該医療技術の概要: 抗血栓凝固療法下の患者における外科手術では、抗凝固剤の中断されることが多いが、独自の止血法により投薬を中断することなく手術を実施している。ほとんどの症例で後出血をみず、投薬の中断による原疾患への影響、再発や増悪のリスクを回避している。この止血法はまた、血小板や凝固因子系に異常をきたす疾患において輸血量削減に貢献している。	
医療技術名 Critical care を用する患者の口腔施術	取扱い患者数 140人
当該医療技術の概要: 呼吸循環モニター下に、全身状態の低下した患者、及び循環器系合併症を有する患者で安全な医療を提供している。	
医療技術名 口腔癌に対する集学的治療	取扱い患者数 12人
当該医療技術の概要: 進展範囲および病期別に、化学・放射線・手術療法のレジメンを定め、根治性と機能温存を最大限実現するためにマイクロサージャリー、各種インプラント、有茎・遊離自家組織移植の技術を動員して良好な治療成績をあげている。	
医療技術名 睡眠時無呼吸症候群の口腔装具による治療	取扱い患者数 21人
当該医療技術の概要: 閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対し、当科で独自に開発した下顎位の移動量調節型 Prosthetic mandibular advancement (東邦式PMA) は、顎関節や咀嚼筋群への副作用を減じ、治療継続におけるコンプライアンスを向上、有効率は90%以上を得ている。	
医療技術名 舌接触補助床による摂食嚥下障害の治療	取扱い患者数 4人
当該医療技術の概要: 摂食嚥下障害における舌接触補助床(特定の形態を付与した口蓋床)を調製・装着することにより、舌背と口蓋接触を助け、嚥下運動の補助・反射の促進を図る。これにより頭頸部領域の術後機能障害や、中枢性の嚥下障害等の患者において効果を発揮している。	
医療技術名 内視鏡視下椎間板切除術	取扱い患者数 35人
当該医療技術の概要: 腰椎椎間板ヘルニア症例に対して、低侵襲手術をめざし、内視鏡視下にヘルニア腫瘍の摘出を行っている。	

医療技術名 脊椎固定術	取扱い患者数 80人
当該医療技術の概要： 脊椎の変形が不安定性に対して、ケージとスクリューロッドを用いて脊椎を固定し、術前症状の改善を図っている。	
医療技術名 顕微鏡下、椎間板ヘルニア摘出術	取扱い患者数 15人
当該医療技術の概要： 腰椎椎間板ヘルニア症例に対して、低侵襲化をめざし、顕微鏡視下にヘルニア腫瘤の摘出を行っている。	
医療技術名 コンピュータナビゲーションシステムの使用	取扱い患者数 20人
当該医療技術の概要： 脊椎インストルメンテーション手術時に個々に最も適したスクリューインプラットの設置を行うためにコンピューター計測をもとにスクリュー刺入を正確に行うためにナビゲーションシステムを使用している。	
医療技術名 自己血回収、輸血	取扱い患者数 310人
当該医療技術の概要： 輸血をすることが予測される患者に対して、感染症の予防、輸血量削減を目的に手術中より自己血回収装置を使用している。人工関節置換術後のドレーン血も自己血回収装置を使用し回収しているが、有用な方法である。	
医療技術名 自己血輸血	取扱い患者数 420人
当該医療技術の概要： 保存血輸血による副作用を予防する目的で、輸血が必要である予定手術の患者に対して、あらかじめ術前に自己血を貯留し、術後保存血輸血を行わず、自己血のみを行っている。	
医療技術名 人工関節置換術	取扱い患者数 300人
当該医療技術の概要： 膝、股、肩、足、肘関節の変形性変化による疼痛、可動域制限などに対して、QOLの向上を目的として人工関節置換術を行い良好な成績を得ている。	
医療技術名 関節リウマチに対する生物学的製剤治療	取扱い患者数 120人
当該医療技術の概要： 関節リウマチの関節炎には炎症性サイトカイン(IL-1,IL-6,TNF- $\alpha$ 72など)が大きくかかわっていることが知られている。近年、関節リウマチの治療法として、これらの炎症性サイトカインに対する生物学的製剤が臨床応用されている。従来の抗リウマチ薬に抵抗性の関節リウマチ患者に対して生物学的製剤を用い治療している。	
医療技術名 Knee CAS による術前計画	取扱い患者数 19人
当該医療技術の概要： 人工膝関節置換術における術前計画を施行。現行までの方法では2次元の計測であったが、CT・立体X-Pにより更に詳細な且つ綿密な術前計画が行えるようになった。	
医療技術名 悪性骨・軟部腫瘍広汎切除術	取扱い患者数 10人
当該医療技術の概要： 悪性骨・軟部腫瘍に対する広汎手術及び機能再建手術を行なっている。	
医療技術名 PCPSの臨床応用の拡大	取扱い患者数 23人
当該医療技術の概要： 重症肺血栓塞栓症、心肺停止後の循環呼吸不全は早急に対応することが予後を決定する。この様な疾患に対して循環呼吸不全に対する補助としてPCPSを臨床応用している。	
医療技術名 急性肺障害に対するCHDF療法	取扱い患者数 15人
当該医療技術の概要： 敗血症、アレルギー性肺臓炎、重症肺炎などに伴う呼吸不全に対しては根本的な原因に対する治療が必要であるが、呼吸不全の病態を増悪する humoral mediator や endtoxine などの吸着、除去を行いながら水分管理、腎不全管理を行えるCHDFを導入している。	
医療技術名 重症心不全患者に対する治療	取扱い患者数 28人
当該医療技術の概要： 重症心不全患者に対し、人工呼吸管理をはじめ大動脈バルーンパンピングと併用し、新しい心不全薬を組み合わせた治療を行っている。	
医療技術名 特殊急性中毒に対する治療	取扱い患者数 15人
当該医療機関の概要： 一般中毒はもとより、自家製の青酸中毒キット、アセトアミノフェン中毒キットを常備し、中毒物値をモニターしながら治療法を選択し、特殊な急性中毒に対処している。	

医療技術名	重症肺炎患者に対する持続血液濾過透析、およびエンドトキシン吸着による治療	取扱い患者数	8人
当該医療技術の概要： 重症肺炎患者では血中サイトカイン、エンドトキシン除去を目的に持続血液濾過透析、エンドトキシン吸着を行い、他の全身管理と併用して行っている。			
医療技術名	心肺機能停止例に対する蘇生術後の管理	取扱い患者数	25人
当該医療技術の概要： 東京消防庁のホットライン要請による病院前心肺停止例を24時間体制で受け入れ、二次救命処置による蘇生術を行い心拍再開例については引き続き集中治療を行い完全社会復帰を目標に行っている。 低体温療法も適応によって導入している。			
医療技術名	化学発光抗体免疫測定法(CLEIA)を用いたIL6の測定	取扱い患者数	88人
当該医療技術の概要： Intuloikin の測定は、今までのところキットが高価なこともあり、実際のSIRS等の診断や抗炎症治療の指標となり得なかったが、迅速な測定可能となり臨床にその場で生かすことが可能になった。 IL6の血清濃度をモニターしながらCHDF、ステロイド等の療法を選択している。			
医療技術名	早期経腸栄養	取扱い患者数	75人
当該医療技術の概要： 各疾患に対して、その病態において、適切な経腸栄養を早期から開始している開始時期は入室24時間以内を目標にしている。迅速な測定可能となり臨床にその場で生かすことが可能になった。 IL6の血清濃度をモニターしながらCHDF、ステロイド等の療法を選択している。			
医療技術名	PMCT	取扱い患者数	3人
当該医療技術の概要： 心肺停止後、蘇生を一時するが、その死因について確定するために、死亡確定後家族等の希望により、造影CT等を施行する。死因検討が可能である。			
医療技術名	無交叉・O型濃原血投与	取扱い患者数	5人
当該医療技術の概要： 外傷や血液型に対する不規則抗体出現等で出血性ショック患者には無交叉でO型濃血投与を施行する。			
医療技術名	強度変調放射線治療	取扱い患者数	10人
当該医療技術の概要： 逆方向治療計画(インバースプラン)に基づき、空間的、時間的に不均一な放射線強度を持つ照射ビームを多方向から照射することにより、病巣部に最適な線量分布を得る放射線治療法である。			
医療技術名	気道狭窄に対するステント療法	取扱い患者数	20人
当該医療技術の概要： 気管・気管支の腫瘍性あるいは尖症性搾取に対する内視鏡下ステント療法です。			
医療技術名	COPD合併肺癌に対する手術療法	取扱い患者数	5人
当該医療技術の概要： 一般に積極的治療対象とならないCOPD合併肺癌に対し、肺切除術を安定に行っている。 自己血を貯留し、術後保存血輸血を行わず、自己血のみを行っている。			
医療技術名	肺癌(切除不能)におけるワクチン療法	取扱い患者数	2人
当該医療技術の概要： 切除不能進行膵臓癌に対する免疫療法の有効性を調べる多施設共同研究。 1. 膵臓癌の腫瘍抗原ワクチンであるWT1ペプチドワクチンに抗癌剤ゲムシタピンを併用する治療 2. 抗癌剤ゲムシタピン単独治療とを比較し、ワクチンの効果を正確に判断する臨床試験			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除と腹腔鏡下膵切除術	取扱い患者数	30人
当該医療技術の概要： 腹腔鏡下肝切除術を国内で初めて試み、その普及の先頭に立ってきた。 2年前に新たな治療法として本手術は保険収載に至り、肝がんを中心に、転移性肝がんや良性肝腫瘍に対して積極的に腹腔鏡下肝切除術を取り入れ、低侵襲手術としての評価を得ています。 また、肝臓とともに最も難易度の高い、膵臓に対しても腹腔鏡下手術を導入しております。			

医療技術名 進行直腸癌に対する腹腔鏡を使用した内肛門括約筋切除を伴う自然肛門温存術	取扱い患者数 8人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>進行直腸癌に対して人工肛門を回避すべく、究極の肛門温存術式として内肛門括約筋切除を伴う自然肛門温存術が導入され、肛門温存の可能性が高まってきた。一般に、本術式は開腹で施行されるが、当院では2006年から進行癌に対して低侵襲で体に優しい腹腔鏡下での手術に積極的に取り組んでいる。</p>	
医療技術名 進行・再発食道癌に対するワクチン治療	取扱い患者数 5人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>食道癌に高発現する特異的腫瘍抗原に対するペプチドワクチン治療臨床試験</p>	
医療技術名 進行・再発食道癌に対する免疫細胞治療	取扱い患者数 5人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p><math>\alpha</math> <math>\beta</math> T細胞を用いた免疫治療の臨床試験</p>	

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	36人	・膿疱性乾癬	2人
・多発性硬化症	25人	・広範脊柱管狭窄症	5人
・重症筋無力症	31人	・原発性胆汁性肝硬変	27人
・全身性エリテマトーデス	207人	・重症急性膵炎	15人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	35人
・再生不良性貧血	27人	・混合性結合組織病	24人
・サルコイドーシス	35人	・原発性免疫不全症候群	4人
・筋萎縮性側索硬化症	27人	・特発性間質性肺炎	36人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	148人	・網膜色素変性症	17人
・特発性血小板減少性紫斑病	39人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	33人	・肺動脈性肺高血圧症	34人
・潰瘍性大腸炎	137人	・神経線維腫症	3人
・大動脈炎症候群	10人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	9人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	8人	・慢性血栓性肺高血圧症	6人
・脊髄小脳変性症	22人	・ライソゾーム病	1人
・クローン病	48人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	27人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	57人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	1人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	2人
・後縦靭帯骨化症	33人	・肥大型心筋症	5人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	1人
・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	17人	・ミトコンドリア病	1人
・ウェゲナー肉芽腫症	5人	・リンパ管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	64人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	14人	・黄色靭帯骨化症	0人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	2人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	36人

(注)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・画像支援ナビゲーション手術	・
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	・
・PPH	・
・胎児心超音波検査	・
・膀胱水圧拡張術	・
・腹腔鏡下肝部分切除術	・
・乳がんセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	月11回
部 検 の 状 況	部検症例数 44 例 / 部検率 4.00%

## (様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
小児好酸球性食道炎 (E E) の患者全体像の把握と診断・治療指針の確立に関する研究【分担】	黒岩 実	小児外科	200	補助 厚生労働省
糖尿病患者のエンパワーメント向上への医療者及び家族サポートの要因に関する研究【分担】	坪井 康次	心療内科	300	委託 厚生労働省
コーディネーター教育機関設立に向けた指導指針の開発 (移植医療の社会的基盤に関する研究)	相川 厚	腎センター	500	補助 厚生労働省
免疫アレルギー疾患予防・治療研究に係る企画及び評価の今後の方向性の策定に関する研究に係る調査研究	宍戸 清一郎	腎センター	3,000	補助 厚生労働省
幹細胞研究を基盤とした男性不妊症のメカニズムの解明及び新規治療の開発	小林 秀行	泌尿器科	500	補助 (社) 日本泌尿器科学会
肥厚性皮膚骨膜炎における遺伝子診断と生化学的検査を踏まえた新しい病型分類の提言と既存治療法の再評価に関する研究	石河 晃	皮膚科	1,000	補助 厚生労働省
稀少難治性皮膚疾患克服のための生体試料収集に関する研究	石河 晃	皮膚科	300	補助 厚生労働省
「周産期医療に関する専門的スタッフの養成」プログラム出生前介入可能な周産期医療人材プラン-地域連携・女性医師支援を視野に入れて-	与田 仁志	新生児科	8,000	補助 文部科学省
低蛋白質ミルク摂取の栄養学的意義に関する研究	与田 仁志	新生児科	1,600	委託 (財) 糧食研
突発性肺線維症における長期NAC単独吸入療法の効果とレドックス制御の関連性	本間 栄	呼吸器内科	1,000	補助 厚生労働省
ANCA関連血管炎・急速進行性糸球体腎炎前向きコホート研究	本間 栄	呼吸器内科	830	補助 厚生労働省
高病原性インフルエンザの人感染症に対する診断/治療ガイドライン作成	本間 栄	呼吸器内科	1,500	補助 厚生労働省
解剖学的統計モデルを用いた顔のCG表現【分担】	丸山 優	形成外科	700	補助 文部科学省
創傷治癒における骨髄細胞 (Fibrocyte) の関与とその発現異常の解明	丸山 優	形成外科	1,100	補助 文部科学省
膠原病諸疾患におけるアディポカインネットワークの解明	川合 眞一	膠原病科	1,700	補助 文部科学省
医薬品の国際共同開発及び臨床データ共有の推進に向けた東アジアにおける民族的要因に関する研究	川合 眞一	膠原病科	3,800	補助 厚生労働省
強皮症における病因解明と根治的治療法の開発【分担】	遠藤 平仁	膠原病科	900	補助 厚生労働省
我が国における関節リウマチ治療の標準化に関する多層的研究【分担】	遠藤 平仁	膠原病科	1,000	補助 厚生労働省
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究業、地域流行型真菌症の疫学調査、診断治療法の開発に関する研究	渋谷 和俊	病理診断科	2,500	補助 厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究業、真菌感染症の病態解明に基づく検査・治療法の確立と国内診断・治療ネットワークの構築に関する研究	渋谷 和俊	病理診断科	2,700	補助 厚生労働省
感染症・免疫難病の先進医療技術開発	渋谷 和俊	病理診断科	2,000	補助 文部科学省
慢性炎症疾患の再生医学を応用した革新的予防法・治療法創成の拠点形成	渋谷 和俊	病理診断科	1,000	補助 文部科学省
胃癌臨床的理学的検討	根本 哲生	病理診断科	300	補助 厚生労働省
重症川崎病患者に対する免疫グロブリン・ステロイド初期併用投与の効果を検討する前方視的無作為化比較試験	佐地 勉	小児科	14,300	補助 厚生労働省
小児等の特殊患者に対する医薬品の適正使用に関する研究	佐地 勉	小児科	455	補助 厚生労働省
難治病川崎病の治療ガイドライン作成	佐地 勉	小児科	1,000	補助 厚生労働省
小児の免疫・アレルギー疾患の発症・重症化の機序と治療法についての研究	佐地 勉	小児科	1,000	補助 国立成育医療研究センター
重粒子線がん治療臨床研究【分担】	高木 啓吾	呼吸器外科	100	補助(独)放射線医学総合研究所
心室細動の発現メカニズムの解明：新しい心臓突然死予知法の確立に向けて	池田 隆徳	循環器内科	300	補助 文部科学省
バーチャル心臓を用いた不整脈危険予測のための機能的モデリング手法の開発	池田 隆徳	循環器内科	100	補助 文部科学省
多階層データに基づく心臓電気現象の総合的機能シミュレーション	池田 隆徳	循環器内科	200	補助 文部科学省
虚血性疾患における心電図同期SPECT(QGS)検査に関する国内臨床データベース作成の為の調査研究(J-Access)	山崎 純一	循環器内科	252	委託 循環器病研究振興財団
慢性炎症性疾患の再生医学	山崎 純一	循環器内科	200	委託 私大戦略的研究基盤形式支援事業

計 33

- (注) 1 国、地方共同団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Mod Rheumatol 2011 Oct 21(5)458-468[Epub 2011 Feb 24] (PMID:21347803) (doi:10.1007/s10165-011-0425- 8)	Efficacy and safety of additional use of tacrolimus in early rheumatoid arthritis patients with inadequate response toDMARD-a multicenter, double-bling, parallel- group trial.	川合 眞一	膠原病科
In:Preedy VR and Hunter RJ(Eds)Adipokines., pp 380- 392, CRC Press, Jersey, 2011.	Adiponectin enhances inflammation in rheumatoid synovial fibroblasts and chondrocytes	楠 夏子	膠原病科
Mod Rheumatol [Epub 2012 Mar 21] (PMID:22434063) (doi:10.100 7/s10165-012-0623-z)	Resistin is associated with inflammation process in systemic autoimmune diseases under glucocorticoid therapy:comparison with leptin and adiponectin.	田中 菜穂子	膠原病科
Mod Rheumatol 2012 Feb; 22(1):66-72[Epub 2011 Jun 3] (PMID:21633913) (doi:10.1007 /s10165-011-0468-x)	Serum adipokine profiles in Kawasaki disease.	監物 靖	膠原病科
脳神経外科と漢方 講演記録 集: 44-47, 2011	慢性硬膜下血腫穿頭術後における五苓散の有用性	福島 大輔	脳神経外科
Jpn Soc Simulation Surg 2011:161-165, 2011	Usefulness of preoperative three-dimensional rotational digital subtraction angiography for superficial temporal artery to middle cerebral artery bypass.	近藤 康介	脳神経外科
Neurologia Medico-Chirurgica 51((1)):1-7, 2011	Effects of edaravone on amodel of punch-drunk syndrome.	野本 淳	脳神経外科
Neurologia Medico-Chirurgica 51(8):567~571, 2011	Modified Three-Dimensional Brain Model for study of the Trans-sylvian Approach.	原田 直幸	脳神経外科
メディカル朝日 40(10): 35-37, 2011	頸動脈内膜剥離術high riskに対する頸動脈ステント留置術 の適応と治療成績。	近藤 康介	脳神経外科
NSNOWNo, 13168-174. メディカル ビュー社, 東京, 2011	[整容脳神経外科Up Date] Vトラブルシューティング1 異 物・プレートの対処法.	周郷 延雄	脳神経外科
ビジュアル脳神経外科7 頭蓋底 ②後頭蓋窩・錐体斜台部86-95. メディカルビュー社、東京、 2012	Retrosigmoid approach.	周郷 延雄	脳神経外科
Hot Topix Neonatology 2011-4-6	PDA-To Close or Not to Close	与田 仁志	新生児科
産婦人科治療 103:277-282:2011	胎児エコースクリーニングの意義 (特集:最新情報からみた周産期医療の画像診断)	与田 仁志	新生児科
周産期医学41:874:-877-2011	心エコー検査 -周産期医学必修知識-	与田 仁志	新生児科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
小児科:11:1643-1653-2011	胎児心臓エコー検査 (特集:小児医療における診断・治療の進歩)	与田 仁志	新生児科
糧食研究会平成22年度研究の概要85-93:2011	低蛋白質ミルク摂取の栄養学的意義に関する研究	荒井 博子	新生児科
ナーズの小児科学250-258:2011 中外医学社、東京	「周産期の疾患」未熟児動脈管開存症、遷延性肺高血圧症、壊死性腸炎、新生児メレナ、多血症、未熟児貧血、頭蓋内出血、脳室周囲白室軟化症、低血糖症、低カルシウム血症、新生児TSS様発疹症、未熟児網膜症	与田 仁志	新生児科
今日の小児治療指針156-159: 2012医学書院、東京	先天性心疾患(心不全)	与田 仁志	新生児科
周産期医学必修知識874-877: 2011東京医学社、東京	心エコー検査	与田 仁志	新生児科
Int J. Integ. Med.	A case of hyperthyroidism with reduced glucose oxidation	竹本 育聖	総合診療科
Hepato-Gastroenterology	Effects of the traditional Japanese medicine Rikkunshito on postprandial glucose and lipid metabolism.	瓜田 純久	総合診療科
Gas Biology in Clinical Practice	Intraluminal Gas and Gastrointestinal Diseases.	瓜田 純久	総合診療科
Journal of Orthopaedic Surgery 19(1):104-107, 2011. 4	Isolated neck extensor myopathy causing a dropped head:a case report.	高橋 寛	整形外科
別冊整形外 59:118-123, 2011. 4	腰椎変性疾患に対するtubular retractorと経皮的椎弓根スクリューを用いた最小侵襲経椎間孔腰椎椎体間固定術の術後中期成績	和田 明人	整形外科
J. Spine Res. 2(8): 1382-1390, 2011. 8	Minimally Invasive Transforaminal Lumbar Interbody Fusion Using a Tubular Retractor and Percutaneous Pedicle Screw for Patients with Degenerative Spondylolisthesis.	和田 明人	整形外科
整・災外54(13): 1621-1628, 2011. 12	嚢腫状軟部腫瘍の臨床病理学的検討	土谷 一晃	整形外科
J of The Japan Society for Simulation Surgery19(3, 4): 145-151, 2011. 12	The usefulness of a CT-based navigation system for screw insertion in the cervical spine in patients with rheumatoid arthritis.	和田 明人	整形外科
整・災外55(2): 229-233, 2012. 2	恒久性膝蓋骨脱臼を伴った変形性膝関節症に対し人工関節置換術を施行した1例	宍倉 亘	整形外科
J Orthop Sci17 (2):14-117, 2012. 3	Incidence of venous thromboembolism after spine surgery.	高橋 寛	整形外科
関節外科30(5): 574-580, 20115	生物学的製剤使用下の整形外科手術の注意点	窪田 綾子	整形外科
整外看17(1):94-100, 2012. 1	原発性骨腫瘍	土谷 一晃	整形外科
整外看17(2):167-173, 2012. 2	軟部腫瘍	土谷 一晃	整形外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本人工関節学会誌	Knee CASによる術前計画	宮崎 芳安	整形外科
皮膚科の臨床53(5); 796-797, 2011	塩酸ジブカインによる接触性皮膚炎の1例	江野澤 佳代	皮膚科
皮膚病診療:33(7); 699-702, 2011. 7	100円化粧品による両眼瞼の接触皮膚炎	高田 裕子	皮膚科
皮膚病診療:33(7); 739-742, 2011. 7	ポビドンヨード10%水溶液による接触皮膚炎症候群	岩瀬 七重	皮膚科
日本臨床皮膚科医会雑誌 28:(4):445-448, 2011. 7	表皮水疱症の遺伝相談	石河 晃	皮膚科
日本皮膚科学会雑誌 121(13):3081-3083, 2011. 12	新生児・乳児にみられる脱色素斑の鑑別診断	石河 晃	皮膚科
検査と技術(0301-2611)39巻5号 Page393-394	日本動脈硬化学会のLDLコレステロールに関する見解	芳野 原	糖尿病・代謝・内分泌科
Progress in Medicine(0287- 3648)31巻5号Page1329- 1333(2011. 5)	シタグリプチンの血中インタクトプロインスリン/インスリン比に対する効果について	芳野 原	糖尿病・代謝・内分泌科
月刊糖尿病3巻6号 Page66-69(2011. 6)	【血糖降下薬療法のコツ】 $\alpha$ -GI治療のコツ	芳野 原	糖尿病・代謝・内分泌科
糖尿病(0021-437X)54巻9号 Page763(2011. 9)	2型糖尿病症例における血中インタクトプロインスリン/インスリン(P/I)比に対するシタグリプチンの効果	芳野 原	糖尿病・代謝・内分泌科
糖尿病(0021-437X)54巻9号 Page761(2011. 9)	Liraglutideにて良好な血糖コントロールを得た2型糖尿病の一例	岡 玲子	糖尿病・代謝・内分泌科
糖尿病学の進歩45号 Page136- 142(2011. 9)	糖尿病診療に必要な知識 テストミールを用いた食後代謝異常の診断と管理	芳野 原	糖尿病・代謝・内分泌科
日本医事新報 (0385-9215)4558号Page48- 50(2011. 9)	不規則な食事しか摂れない人の糖尿病管理	芳野 原	糖尿病・代謝・内分泌科
成人病と生活習慣病(1347- 0418)41巻11号Page1303- 1308(2011. 11)	【生活習慣病の栄養管理】糖分量制限の方策と指導	芳野 原	糖尿病・代謝・内分泌科
Therapeutic Research(0289- 8020)32巻 12号 Page1611- 1615(2011. 12)	ロスバスタチンの脂質プロファイル改善作用と副腎アンドロゲン増加作用	上芝 元	糖尿病・代謝・内分泌科
新薬と臨床(0559-8672)61巻3号 Page462-467(2012. 3)	肥満高血圧症におけるアゼルニジピン長期投与のインスリン抵抗性改善作用について	上芝 元	糖尿病・代謝・内分泌科
糖尿病の最新治療(1884-2542)3 巻 第2号 Page66-72(2012. 2)	【グリニド薬Revisited】グリニド薬の作用機序・種類、SU薬との違い	芳野 原	糖尿病・代謝・内分泌科
糖尿病(0021-437X)55巻2号 Page110-115(2012. 2)	早朝空腹時低血糖を示す成人成長ホルモン分泌不全に併発する糖尿病の1例	芳野 原	糖尿病・代謝・内分泌科
REPRODUCTIVE MEDICINE AND BIOLOGY	Reprogramming of adult human testicular cells by four transcription factors(OCT4, SOX2, KLF4, andC-MYC)	小林 秀行	泌尿器科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
肺癌	ゲフィチニブ投与前にL858RとT790MのEGFR遺伝子変異を認めた原発性肺癌の1部検例	徳橋 芙美子	呼吸器内科
肺癌	末梢血中の循環細胞を用いたEGFR遺伝子変異検出の検討	磯部 和順	呼吸器内科
臨床呼吸生理	時発性肺線維症におけるNAC単独吸入療法の効果とレドックス制御	村松 陽子	呼吸器内科
Therapeutic Research	気管支拡張症に合併した耐性緑膿菌による難治性持続気道感染の例	佐野 剛	呼吸器内科
thoracic CANCER	The role of fluoro-2deoxyglucose positron emission tomography for the detection of gastrointestinal tract lesions in patients with lung cancer.	磯部 和順	呼吸器内科
Intern Med	Acute exacerbation of idiopathic interstitial pneumonia following lung surgery in 3 of 68 consecutive patients: a retrospective study.	坂本 晋	呼吸器内科
Hot	気腫合併肺線維症における労作時低酸素	本間 栄	呼吸器内科
Mebio	間質性肺炎を管理・治療するN-アセチルシステイン	本間 栄	呼吸器内科
東京産科婦人科学会誌	卵巣転移を認めた GISTの1例	関根 貴子	産婦人科
東京産科婦人科学会誌	G-CSF産生子宮頸癌の1例	長島 克	産婦人科
産婦治療	PCOSとART～問題点と今後の課題～	片桐 由紀子	産婦人科
産科と婦人科	ARTにおける卵巣反応性とFSH/E2 高齢ART周期症例の卵回収周期におけるFSHとE2	福田 雄介	産婦人科
IS IVF	What was happened on epigenetics in ART children?	片桐 由紀子	産婦人科
心身医学	バイオフィードバック療法の臨床応用	端詰 勝敬	心療内科
日本小児腎不全学会雑誌	小児腎移植患者におけるタクロリム徐放性製剤の使用経験	兵頭 洋二	腎センター
日本小児腎不全学会雑誌	他施設より依頼を受ける小児腎臓移植術前管理の問題点	長谷川 慶	腎センター
日本小児腎不全学会雑誌	小児期に腎移植を受けた患者がノンアドヒアランスを呈した2症例	関 真奈美	腎センター
日本小児腎不全学会雑誌	小児腎移植における潜在的拒絶反応に対する治療と移植腎機能の検討	村松 真樹	腎センター
日本小児腎不全学会雑誌	小児腎臓学講座発足以降のpre-emptive小児腎移植例の検討	青木 裕次郎	腎センター
International Journal of Nephrology	Effluent Markers Related to Epithelial Mesenchymal Transition with Adjusted Values for Effluent Cancer 125 in Peritoneal Dialysis.	水入 苑生	腎センター
腎移植後内科小児科合併症の診療ガイドライン	腎移植後メタボリックシンドローム	酒井 謙	腎センター

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
第44回日本臨床腎移植学会記録集 腎移植症例集2011	低マグネシウム血症にて治療抵抗性の電解質異常を生じた腎移植患者の1例	服部 吉成	腎センター
腎と透析	横隔膜交通症において保存的に腹膜透析の継続が可能であった4例	服部 吉成	腎センター
日本シミュレーション外科学会誌	Vascular waveform analysis of vascularized flaps using color doppler ultrasonography.	荻野 晶弘	形成外科
日形会誌	頬骨骨折に対する術中ナビゲーションシステム	荻野 晶弘	形成外科
The Lancet, 2012, 379 (9826) :1613-1620	Efficacy of immunoglobulin plus prednisolone for prevention of coronary artery abnormalities in severe Kawasaki disease: a prospective, randomised, open, blinded-endpoints trial.	佐地 勉	小児科
Case Rep Gastroenterol 2011;5:100-109	Crinking status of heavy drinkers detected by arrival time parametric imaging using Sonazoid-enhanced ultrasonography: study of two cases.	和久井 紀貴	消化器内科
映像情報メディカルVol143, 386-397, 2011. 5	ここまで見える!びまん性肝疾患の超音波診断	住野 泰清	消化器内科
日本医事新報 4552:67-70, 2011	エコーで診る上腹部①	住野 泰清	消化器内科
メディカルテクノロジー Vol139, 659-668. 2011	腹痛の画像診断2. 各論 (1) 肝・胆道系疾患	住野 泰清	消化器内科
Hepato-Gastroenterology 58, 1431-1435, 2011	Diagnosis of hepatic hemangioma by parametric imaging using Sonazoid-enhanced US.	和久井 紀貴	消化器内科
Jpn J Med Ultrasonics Vol138, 637-646, 2011	肝細胞癌ラジオ波焼灼範囲とSonazoid造影超音波後血管相(Kupffer phase)におけるmicro bubble 崩壊距離との関係	高橋 政義	消化器内科
インナービジョンVol26, 36-38, 2011	造影エコーを極める (2) びまん性肝疾患-造影超音波を用いた血流動態解析手法の有用性	住野 泰清	消化器内科
造影超音波. 戸田剛太郎編、先端医療技術研究所. 299-302, 2011	消化器疾患の最新医療 第17章消化器疾患の画像診断の進歩2	住野 泰清	消化器内科
日門亢会誌18 (1) : 14-18, 2012	門脈圧亢進症の血行動態診断におけるparametric imagingの有用性について	和久井 紀貴	消化器内科
J Ultrasound Med;31(March). 373-382, 2012	Usefulness of arrival time parametric imaging in evaluating the degree of liver disease progression in hepatitis C infection.	和久井 紀貴	消化器内科
Cancer Chemother Pharmacol 2011 68:139-145	Multimodal therapy for liver cirrhosis patients with advanced hepatocellular carcinoma.	永井 英成	消化器内科
医学と薬学 67(1), 82-84	TACE併用RFA後に急速増大をきたしたHCCの1例	金川 武徳	消化器内科
超音波医学 38(6), 637-646	肝細胞癌ラジオ波焼灼療法とSonazoid造影超音波後血管相(Kupffer phase)におけるmicro bubble崩壊距離との関係	高橋 政義	消化器内科
総合臨床	インスリン抵抗性	高井 雄二郎	臨床生理機能
喉頭23 (1) 26-29 2011	甲状軟骨I型・チタンプレートによる軟骨片の固定	松島 康二	耳鼻咽喉科



雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
腎と透析	特集 透析医療に必要な薬の使い方 真菌症	根本 哲生	病理診断科
日本産婦人科学会東京地方部会 会誌、60 (1) : 174-8, 2011	胎児機能不全を呈した臍帯血管断裂の1例	高橋 賢司	病理診断科
日本呼吸器学会雑誌 49 (3):221-5, 2011	3D-CTにより診断し、異常血管のみの切除にて治癒した肺底動脈大動脈起始症の1例	後町 杏子	病理診断科
J Med Ultrasonics 38:167- 71, 2011	Splenic artery aneurysm that gradually increased in size over 4 years until threatening rupture.	和久井 紀貴	病理診断科
日本呼吸器学会雑誌、 49 (8) : 602-6, 2011	化学療法中に傍腫瘍性辺縁系脳炎を合併した肺小細胞癌の1例	磯部 和順	病理診断科
Nihon Kokyuki Gakkai Zasshi, 49 (8) : 602-6, 2011	A case of small-cell lung cancer associated with paraneoplastic limbic encephalitis during Chemotherapy.	磯部 和順	病理診断科
Case Rep Gastroenterol, 5:558- 64, 2011 DOI:10.1159/000332443	Gastrointestinal Stromal Tumor Mimicking Arteriovenous Malformation of the Jejunum.	塩澤 一恵	病理診断科
かびと生活、Vol4, No2, 113- 9, 2011	環境由来カビによる感染症の診断	笹井 大督	病理診断科
化学療法の領域、Vol 28, NO1, 67-74, 2012	真菌と感染宿主との相互関係-病理学的見地から-	根本 哲生	病理診断科
Mycoses DOI:10.1111/j.1439- 0507.2012.02169.x	Trends in the prevalence of invasive fungal infections from an analysis of annual records of autopsy cases of Toho University.	渋谷 和俊	病理診断科
Eur J Med Res, DOI:10.1186/2047-783X-17- 5	Literature survey on epidemiology and pathology of cardiac fibroma.	渋谷 和俊	病理診断科
日呼吸器誌、1(3):251-5, 2012	肝転移を契機に診断された線維形成型悪性胸膜中皮腫の1例	太田 宏樹	病理診断科
㈱協和企画, 東京, 2012	深在性真菌症 病理診断アップデートレビュー	渋谷 和俊	病理診断科
㈱メディカルトリビューン、東 京、2012.1.26	カンジダ感染症の病態把握・抗真菌薬の適正使用により予後を改善 pp20	渋谷 和俊	病理診断科
分担研究報告書:23-30, 2012(3)	病理組織・細胞診断における遺伝子補助診断法の開発と診断支援活動への応用. 厚生労働科学研究費補助金新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業「真菌感染症の病態解明に基づく検査・治療法の確立と国診断・治療ネットワークの構築に関する研究」平成23年度総括	渋谷 和俊	病理診断科
日本気管食道科学会会報	食道癌による気管浸潤の治療戦略:ステント治療	高木 啓吾	呼吸器外科
日本呼吸器外科学会雑誌	術前1秒量0.8Lであった重症COPD合併肺癌の1切除例	牧野 崇	呼吸器外科
日本気胸嚢胞性肺疾患学会雑誌	鈍的胸部外傷における遅発性血胸	秦 美暢	呼吸器外科
Cardiovascular Intervention and Therapeutics 26(3):246- 251, 2011	Clinical outcomes of the placement of a drug-eluting stent with the use of Rotablator TM in dialytic patients;incomparison with non-dialytic patients.	新居 秀郎	循環器内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
European journal of heart failure: journal of the Working Group on Heart Failure of the European Society of Cardiology 13(8):892-898, 2011	Comparative analysis of the therapeutic effects of long-acting and short-acting loop diuretics in the treatment of chronic heart failure using <sup>123</sup> I-metaiodobenzylguanidine scintigraphy.	久武 真二	循環器内科
J Electrocardiol 44:669-672, 2011	Usefulness of heart rate turbulence for predicting cardiac events in patients with nonischemic dilated cardiomyopathy.	池田 隆徳	循環器内科
Medical Tribune 45(7):30-32, 2012	最近の心房細動治療の動向	池田 隆徳	循環器内科
Medicina 48:1184-1188, 2011	循環器疾患の予防戦略：致死性不整脈による心臓死の予防	池田 隆徳	循環器内科
Medicina 49:40-43, 2012	外してはならない循環器薬の使い方2012：心室性頻脈性不整脈：心室期外収縮・心室頻拍・心室細動	池田 隆徳	循環器内科
Prog Med 32:207-213, 2012	新規経口抗凝固薬の新たな展開：ワルファリンの位置づけ	池田 隆徳	循環器内科
Ther Res 32:1573-1584, 2012	Antiarrhythmic drug therapy for atrial fibrillation.	池田 隆徳	循環器内科
jimedmook_15:43-47, 2011	あなたも名医！ああ～どうする？！この不整脈：無症状の慢性心房細動	池田 隆徳	循環器内科
jimedmook 15:48-53, 2011	あなたも名医！ああ～どうする？！この不整脈：慢性心房細動+息切れ・動悸	池田 隆徳	循環器内科
アンカロンポケットブック（改訂版）：1-47, 2011	アンカロンを安全かつ有効にご使用いただくために	池田 隆徳	循環器内科
アンカロン注症例集（改訂版）：1-8, 2011	症例数4（拡張型心筋症の経過中に出現した持続性単形性心室頻拍・急性心筋梗塞時のP C I中に出現した多形性心室頻拍）	池田 隆徳	循環器内科
シベノール/プロノン薬剤情報（改訂版）：1-5, 2011	わかりやすい心房細動治療：自律神経活動を考慮した薬剤選択のポイントとコツ	池田 隆徳	循環器内科
プロノン薬剤情報（改訂版）：1-2, 2011	心房細動治療における薬剤選択ポイント	池田 隆徳	循環器内科
核医学画像診断26:49-57, 2011	心疾患におけるMIBGシンチグラフィの有用性と定量解析における注意点	山科 昌平	循環器内科
循環器Circulation 1(3):94-102, 2011	虚血性心疾患の治療薬：抗不整脈	池田 隆徳	循環器内科
循環器Circulation 1(4):40-49, 2011	循環器内科医の腕の見せどころ-β遮断薬による心疾患治療：頻脈性不整脈に対するβ遮断薬の使い方	池田 隆徳	循環器内科
心房細動に対するリズムコントロール：1-6, 2012	心房細動に対する薬物治療の考え方：リズムコントロールを中心に	池田 隆徳	循環器内科
新薬と臨床60:1484-1491, 2011	致死性心室性不整脈に対するアミオダロン静注薬の有用性	池田 隆徳	循環器内科
内科 109:5-13, 2012	不整脈の治療は新時代に：新しい抗凝固薬は心房細動抗凝固療法の適応を拡大させるか	池田 隆徳	循環器内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本臨床69(7):258-268, 2011	冠動脈疾患に対する治療の基本的な考え方 V. 冠動脈疾患における治療学の進歩 「冠動脈疾患(上)-診断と治療の進歩-」 Coronary Artery Disease(1)	我妻 賢司	循環器内科
日本臨床69(9):189-193, 2011	急性心筋梗塞の薬物治療 RASS抑制薬・βブロッカー	山科 昌平	循環器内科
臨床と研究88:777-780, 2011	突発性心室細動/Brugada症候群患者のリスク層別化	池田 隆徳	循環器内科
臨床スポーツ医学29:203-208, 2012	アスリートに対する突然死予防対策:心臓突然死の予知を目指した取り組み:微小電位と突然死	池田 隆徳	循環器内科
臨床医のための循環器診療15:3-22, 2011	最新の心房細動アブレーション治療の光と影	池田 隆徳	循環器内科
臨床看護37:604-605, 2011	興奮の伝わり方と波形を結びつけて理解する心電図セミナー-特集にあたって	池田 隆徳	循環器内科
呼吸と循環59(4):S6-S11, 2011	PDE III阻害薬の適応とその使い方(解説)	久武 真二	循環器内科

計137

- (注)
- 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発およびの医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
  - 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	総務課 次長 春木 信一
管理担当者氏名	医療情報管理センター 次長 吉野 彰・総務課 早川 英克

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		医療情報管理センター  病院日誌は総務課	ターミナルデジット方式について分類
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
	高度の医療の提供の実績	診療科及び総務課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	診療科及び総務課	
	高度の医療の研修の実績	診療科及び総務課	
	閲覧実績	医療情報管理センター	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部及び医事課	
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項の各号及び第九の二十三の第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	総務課及び医療安全管理部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	総務課及び医療安全管理部	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課及び感染管理部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	総務課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染管理部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学部及び中央放射線部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部及び中央放射線部
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部及び中央放射線部	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部及び中央放射線部	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	事務部 総務課 次長 春木 信一
閲覧担当者氏名	事務部 総務課 早川 英克
閲覧の求めに応じる場所	個人情報管理室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	48.4%	算定期間	平成23年4月1日～平成24年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		16,817人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		12,458人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		4,227人
	D: 初診の患者の数		56,791人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	○有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 総則 ①趣旨 ②安全管理に関する基本的方針</li><li>2. 組織および体制 ①医療安全管理部の設置 ②安全管理対策委員会の設置 ③医療安全を推進するための組織および体制</li><li>3. 報告等に基づく医療に係る安全確保を目的とした改善方策 ①報告とその目的 ②報告に基づく情報収集 ③報告内容の検討等</li><li>4. 職員研修 ①職員に対する教育研修 ②医療安全情報の共有 ③医療安全管理マニュアルの作成・更新</li><li>5. 医療事故への具体的対応・対策 ①医療安全に関する組織的取り組み ②機能する医療事故防止対策 ③適切な医療事故への対応</li><li>6. 医療従事者間と患者との間の情報共有</li><li>7. 患者等からの苦情・相談への対応</li><li>8. 本指針の見直し</li></ol>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1) インシデント及びアクシデントの実態の把握と、その背景要因の分析と評価</li><li>2) 医療の質と安全を確保するための具体策の策定と実施</li><li>3) 医療の質と安全を確保するためのマニュアル作成と励行</li><li>4) 医療の質と安全を確保するための知識の向上を図るための院内研修の実施</li><li>5) 他の病院における医療事故情報の収集とその要約の院内広報</li><li>6) 医療安全マニュアルの定期的な点検の実施と改善、及び検証</li><li>7) 医薬品の安全使用に関する管理</li><li>8) 医療機器の安全使用に関する管理</li><li>9) 相談・苦情内容の実態把握および分析と評価</li></ol>	

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 4 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 第 1 回 医療安全全体研修 (7/4~7/5 : 1, 876名)</li> <li>2) 第 1 回 未受講者研修 (8/9、10、18、19 : 228名)</li> <li>3) 第 2 回 医療安全全体研修 (11/2 : 1, 337名)</li> <li>4) 第 1 回 医療安全研究会 (12/5 : 66名)</li> <li>5) 第 2 回 医療安全研究会 (12/6、7、8、9 : 178名)</li> <li>6) 第 2 回 未受講者研修 (12/13、14、15、21、16 (2回) 、19 (2回) 、26 (2回) : 609名)</li> <li>7) 第 3 回 医療安全研究会 (2/16 : 78名)</li> <li>8) 平成 2 3 年度 未受講者研修 (随時開催 : 12名)</li> </ol>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( ○有・無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 各ワーキンググループ活動状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・インスリン値WG (活動中) <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 持参インスリンの指示を患者別ワークシートから注射指示書へ運用変更</li> <li>⇒ スライディング指示の院内統一スケールを作成し運用開始</li> </ul> </li> <li>・持参薬WG (活動中)</li> <li>・DVT予防プロジェクト (活動中)</li> <li>・AED基準WG (活動中)</li> <li>・グリセリン浣腸 WG (終了)</li> <li>・CV関連WG (終了) <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 3病院統一 CVC挿入ガイドラインと認定医制度の決定</li> </ul> </li> <li>・手術室注射指示WG (終了) <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 手術室より継続して使用している薬剤の注射指示書作成と運用規定の作成</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>2) 医療安全マニュアル (全項目の見直しを実施)</li> <li>3) 一時保護委託中の女兒連れ去りシミュレーション実施</li> </ol>	



⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	○有（2名）・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	○有（7名）・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	○有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員： 専任（2）名、兼任（14）名、専従（4）名、顧問（2）名</li> <li>・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 安全管理対策委員会・セイフティーマネジャー会議・部内会議の資料及び議事録の作成及び保存、その他会議の庶務に関する事</li> <li>2) 医療の質の向上に関する事</li> <li>3) 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認及び指導に関する事</li> <li>4) 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況についての確認及び事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認及び指導に関する事</li> <li>5) 医療安全に係わる連絡調整に関する事</li> <li>6) 患者等からの苦情、相談に関する事</li> <li>7) 院内巡視</li> <li>8) 安全管理研修会の企画及び準備</li> <li>9) その他医療安全対策の推進に関する事</li> </ol> </li> </ul>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	○有・無

(様式第 13-2)

### 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>骨子－院内感染より患者及び医療従事者の身を守るために、手指衛生及び感染予防策を徹底させることを目的として策定した。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1、感染対策に関する基本的考え方</li><li>2、感染対策のための委員会</li><li>3、感染対策のための従事者に対する研修に関する基本指針</li><li>4、感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li><li>5、感染症発生時の対応に関する基本方針</li><li>6、他病院との連携に関する基本方針</li><li>7、患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li><li>8、その他の感染対策の推進のために必要な指針</li></ol> <p>を中心に策定している。</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：毎月第2金曜日を定例として委員会を開催。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>①厚労省・東京都等からの通達</li><li>②感染症報告書の集計報告</li><li>③主要菌サーベイランス報告</li><li>④抗菌薬使用状況、耐性菌発生件数報告</li><li>⑤ICTラウンド結果報告</li><li>⑥耐性菌警告書発行報告</li><li>⑦マニュアル改定・作成報告</li><li>⑧研修報告</li><li>⑨感染防止対策加算における連携に関する活動報告</li></ol> <p>等を行い、院内感染上問題となる状況やその徴候について審議。また、衛生委員会、医療安全管理部と連携し、感染対策の推進を図っている。</p>	

③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年31回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1、全職員対象とした全体研修を年2回実施</p> <p>1回目：テーマ「院内感染対策の基本 ～MRSAを中心に～」</p> <p>2回目：テーマ「感染予防対策～その手 本当に清潔ですか?～」</p> <p>追加で未受講者に対する研修をのべ10日間実施</p> <p>2、全職種対象としたセミナーを年2回実施</p> <p>1回目：テーマ「当院におけるMRSAの現状と対策」</p> <p>2回目：テーマ「院内感染対策の新しい流れ～MRSA対策などを含めて～」</p> <p>3、新規採用者に対する研修の実施</p> <p>医師、研修医、看護師対象に院内感染の基礎知識等</p> <p>4、各職種にあわせた研修の実施</p> <p>医師－①抗菌薬の基本知識とTDM・届出②結核を見逃さない為の読影ポイント③耐性菌の基礎知識</p> <p>看護師－①感染基礎研修4回/年（微生物検査の提出と解釈、耐性菌の基礎知識、PPE着用方法、洗浄・消毒・滅菌）②尿留置カテーテル管理③VAP予防④血管留置カテーテル管理</p> <p>その他－臨床工学士、理学・作業・言語療法士、ヘルパー、クラーク、清掃員業務士、ボランティア、医事課事務員</p> <p>※平成23年度のべ参加者数：5816名</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 ( <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>1、 意識改革への取り組みと見える化対策</p> <p>① 血液培養におけるMRSA分離率を50%以内にするということを病院全体の目標に掲げた。</p> <p>② 看護部感染対策委員会によるMRSA対策に一本化した活動の実施。</p> <p>③ MRSA検出率の高い診療科・病棟を中心としたパネルディスカッション形式のセミナーを開催し、問題の共有化を図り、バンドルとしての感染対策が有効であることを確認した。</p> <p>④ 全職員対象の全体研修にて「バンドルとしての感染対策」という考え方を周知した</p>	

。⑤ 耐性菌検出状況を電子カルテに「感染マップ」として反映されるように電子カルテの改修を実施。

⑥ 「感染マップ」の運用手順を作成し、現場スタッフ全員が耐性菌検出患者の把握に活用できる体制の整備。

## 2、 地域との連携強化

① 大田区入院医療協議会の中に新たに院内感染対策専門部会が設立された。当院はその幹事会の病院として中心的役割を担う。地域の病院から対応困難な感染症や感染対策についてアドバイスが欲しいとの強い要望もあり、コンサルティングの受け付け及び院内ラウンドの見学を随時受け入れる体制を整えた。

② 感染防止対策加算 2 の連携病院と、定期的なカンファレンスを開始した。

## 3、 院内環境調査

- ・ 救命センター陰圧室設置工事に伴うエアサンプリング調査を実施。その結果から、アスペルギルスの発生予防に簡易陰圧装置使用の有用性が証明でき、今後の施設改修工事の感染対策を講じることができた。

## 4、 PPE着用徹底への取り組み

- ・ 装着するという行動を誘発させるため、病室前に手袋・ガウン・マスクを設置するための固定具の取り付けを開始。今年中に全病室に取り付け完了を予定。

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 7 回
・ 研修の主な内容： ・ 医薬品の有効性・安全性に関する情報 ・ 使用方法に関する事項 ・ 業務手順書に関する事項 ・ 副作用が発生した場合の対応に関する情報	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有)・無 ) ・ 業務の主な内容： ・ 医薬品の業務手順書の作成・医薬品の安全使用のための研修 ・ 業務手順書に基づく実施状況の確認・記録 ・ 改善のための方策の実施	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)・無 ) ・ その他の改善のための方策の主な内容：  PMDAおよび製薬企業からの医薬品安全情報を速やかに伝達（お知らせの配布・院内ネット（メール配信）の利用・会議報告）。中でも個別対応が必要な場合は、科・医師を調査・特定し、個別に情報を伝達している。また、セーフティマネージャー会議を通じて報告内容を全職員に閲覧し周知を図っている。院内副作用報告は医薬品情報室で一元化。薬事委員会で報告後職員にも情報を発信している。全ての情報は職員は随時入手できる体制となっている。	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 33 回
・ 研修の主な内容： ・ 除細動器の院内配置と使用時の留意点について講義 ・ 人工呼吸器の操作、注意事項についての講義および実技指導 ・ 適切なモニターアラームの設定と対応について講義 ・ 閉鎖式保育器の操作、注意事項についての講義および実技指導	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： ・ 外部委託（メーカー）定期保守：人工呼吸器、放射線治療装置、血液浄化装置、閉鎖式保育器 ・ 院内実施定期保守：除細動器、人工心肺装置、血液浄化装置、輸液・シリンジポンプ	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 院内医用テレメーターアンテナ設備の受信環境調査を計画・実施準備	